

様式第2号

視察研修先	沖縄県糸満市	氏 名	渡 邊 賢 一
視察研修項目	「平和行政について」		

1. はじめに

糸満市では、平成5年12月1日に平和都市宣言が制定され、平和推進事業が進められています。

糸満市平和都市宣言

まちには 人々の笑顔がある
 青い海には 魚たちが舞い
 ひかりの陸(おか)には 作物がある
 ここは 私たちのふるさと
 海のかなたの国々にも
 同じ地球の 人間のくらしがある
 意地ぬんじらあ 手引き
 手ぬんじらあ 意地引き
 私たちは
 み霊の眠る「平和の杜(もり)」に誓う
 みどりの山河を愛し
 いのちの尊さ 命どう宝を
 いつまでも 伝えていくと
 そして くらしと自由を守り
 沖縄の 日本の 世界の
 永遠の平和を
 いのり求めていくことを
 この民々の声を
 平和都市 糸満市の宣言とする
 平成 5 年 12 月 1 日

戦後の沖縄

戦後復興は、遺骨収集から始まり、各地域で戦没者の御霊を弔うため納骨所や慰霊塔、慰霊碑が建立されました。戦後79年が経ち、沖縄は先人たちの努力によって発展を続けてきましたが、いまだに「基地問題」「不発弾処理」など多くの問題を抱えています。最近では、宮崎空港の不発弾爆発がニュースとなりましたが、仙台空港や那覇空港には、まだ処理されていない不発弾が多数埋まっていると言われていま

す。不発弾処理には、一日平均1件以上のペースで続けられていますが、すべての処理には、なんと、あと70年から100年かかるとされています。

平和都市宣言 糸満市ホームページより抜粋
<https://www.city.itoman.lg.jp/>

2. 視察項目

(1) 平和推進事業「平和の語り部育成事業」について

戦争を知らない世代のさらに子や孫である若い世代に沖縄戦の実情をわかりやすく伝え、歴史を後世に伝える人材を育成する目的で、糸満市の先進的かつ意義深い平和教育が行われています。(糸満市企画部政策推進課様よりご教示いただきました)

① なぜ平和推進事業を行っているか

第二次世界大戦末期、激しい地上戦となった沖縄戦で20万人の尊い命が失われ、糸満市は、「沖縄戦終焉の地」ともいわれ、戦争遺構や慰霊塔が多く点在しており、悲惨な戦争を二度と繰り返してはならない、世界の恒久平和実現のため、糸満市から戦争の悲惨さ、平和の尊さを発信し続けています。

② 平和祈念祭推進事業について

6月17日から23日まで「平和週間」と定め、糸満市平和祈念祭を開催しています。平和の礎の拭き清めを行い、亡くなられたすべての人々を追悼しています。また、平和関連の舞台演目として、絵本「ひめゆり」の朗読や、歌と書道のパフォーマンスを行ったりしています。

③ 「平和の語り部育成事業」

戦争を知らない世代のさらに子や孫である若い世代に沖縄戦の実情をわかりやすく伝え、歴史を後世に伝える人材を育成することを目的に実施されています。戦争体験者が年々少なくなっており、語り継ぐことが困難になっているからです。

中学1年生から高校3年生が中心の中高生のこれまでの参加実績は、今年度18名が参加し、累計の研修修了生としては、2021年129人、2022年136人、2023年143人と、年々増加しています。

成果発表会と修了式の状況ですが、市内の慰霊碑などを巡りながら、慰霊碑にまつわる話や建立された経緯について、フリップを使いながらわかりやすく発表する様子が見られました。成人してからの活動は、語り部として、学校の授業などに出向き、若い世代に語り継いでいくことを実践されております。

④ 戦争遺構の保全・活用

戦争体験者の高齢化や少数化により、戦争の記憶継承がヒトからモノへと言われています。糸満市では、激戦地であったため、住民洞穴など市内に点在する避難壕「ガマ」や戦争で被害を受けた建造物の保存は、戦争の記憶を伝える「物言わぬ語り部」であります。若者に対する生きた教材を保存し、活用しています。

今回の視察では、課題について、これまで3D 撮影や360度カメラによる VR 作成などが行われていますが、自然洞穴が多いがゆえに自然風化の懸念、ほとんど民有地であるため、利活用が困難、安全性を保つために鉄骨を組んだりすると莫大な予算で建設費や維持費がかかることなどが挙げられておりました。

(2) 「市民が語る戦中戦後史」映像記録事業について

① 担当する生涯学習課文化振興係所管

沖縄戦糸満市の戦中戦後をまとめた市史
糸満市史資料編7 戦時資料 上巻2003年

市民の被災状況をまとめた表や各字ごとに戦争体験談を掲載した市史
同 下巻1998年

② 予算 沖縄振興特別推進交付金により2015年・2016年に実施

沖縄戦体験者へのインタビュー映像を個人別証言として編集
業務委託先 琉球朝日放送
個人別証言記録
2015年 31名 2016年 24名

③ 平和学習教材として DVD を活用するため市内全小中学校への配布

市立中央図書館でも視聴できる
生涯学習課にて随時貸し出し

④ 活用整備の課題と展望

戦争体験者の高齢化に伴い、生の声で証言を聞く機会がさらに減少している
学校現場で担当者が異動でかわると引き継がれない
映像補助教材手引書を作成
校長会・教頭会で周知

3. 資料

本県と糸満市を結ぶ貴重な記録や映像データがありました。私たち会派の訪問団は、これらを事前学習資料として活用させていただきました。

(1) NHK アーカイブス 2008

沖縄戦 住民を巻き込んだ悲劇の戦場 ～山形県・歩兵第32連隊～

太平洋戦争で、国内 最大規模の地上戦の舞台となった沖縄本島では、住民を巻き込んだせいぜい惨な戦いが繰り広げられた。日本の敗色が濃厚となっていた昭和20年3月、米軍は54万の兵力と最新鋭の兵器を投入し、沖縄への上陸作戦を開始する。沖縄戦の最前線で戦った陸軍歩兵第32連隊。山形県、北海道、沖縄県出身者で編成され、およそ3000人が投入された。5か月にわたる過酷な戦いの中で、将兵の9割が戦死する。敗北が決定的となった後も、日本軍は戦いを続け、さらなる悲劇を生む。無謀な戦闘の継続が多くの住民の命を奪うことになったのだ。第32連隊の元兵士たちの証言から住民を巻き込んで繰り広げられた沖縄戦の実態を描く。

山形県出身 浜本俊則氏の証言 「動けない傷病兵の運命」

歩兵第三十二連隊は悲運を辿り、太平洋戦争で、沖縄県の防衛に駆り出され、山形県出身者約 3 万 8000 人が犠牲になったとされます。沖縄県には、こうした山形県出身の戦没者を慰霊する「山形の塔」も建てられており、今に至るまで両県の交友は続いています。

山形の塔では、軍旗は天皇陛下から直接手渡しで授けられる極めて神聖なものであり、また天皇陛下の分身であると認識され、たいへん丁重に扱われたため、敵の手に渡さないようにと、焼却処分された場所でもある。

(資料から抜粋)

故郷山形城が「霞城」と呼ばれていた為、別名「霞城部隊」と呼ばれていました。沖縄戦の前年の1944年に所属していた「第24師団」とともに、沖縄に配属されました。沖縄戦が始まると日本軍の司令部がある首里の北側の守備を任されます。激戦となっていた前田高地で戦い、西原村(現西原町)では棚原高地を奪うなど戦果をあげましたが、1945年5月下旬日本軍の首里撤退とともに、「歩兵第32連隊」も南部に撤退しています。沖縄戦は1945年6月23日、日本軍第32軍司令官「牛島満中将」が自決し、日本軍の組織的な抵抗が終了しました。

しかし、第32軍司令部の最後の打電が、(本土防衛の時間稼ぎのため)最後まで抵抗

を命じたものであったため、残存兵力の散発的な抵抗は続きました。中でも、精鋭と知られた「山形歩兵第 32 連隊」(以下歩兵第 32 連隊)は沖縄戦終結はおろか、日本の終戦後も投降せず 1945 年 8 月 29 日まで戦いました。

「第 32 連隊」はどのような部隊だったのか、どのように投降していったのか。南部撤退後の 6 月初旬、「歩兵第 32 連隊」は南部のガマを使用し、アメリカ軍に徹底抗戦をします。尚、一部のガマは元々住民の避難壕でしたが、中の住民を追い出し接収しました。このあたりは「歩兵第 32 連隊」の証言でも残っています。圧倒的な兵力でアメリカ軍は沖縄本島南部を制圧していきます。

しかし日本軍の司令部は最後まで抵抗を命じたので「歩兵第 32 連隊」はその後も戦い続けます。「歩兵第 32 連隊」は生き残った連隊長のもと陣地と化したガマを堅持し、完全な指揮系統を保ったままゲリラ戦を展開し、アメリカ軍を悩ませます。実はこの頃になると、アメリカ軍の攻撃が緩和し、夜間はほとんど攻撃がなかったため、食料の確保や補充、陣地の補強などをしていたようです。その後 7 月後半には沖縄本島北部国頭へ(日本軍が沖縄本島北部から援軍にくると噂が流れ合流し戦うため)移動しようしていました。まだまだ戦意は衰えておらず、8 月 15 日の終戦後も日本軍の勝利を信じて戦いました。

(2) 糸満市内慰霊塔・資料館を訪問

糸満市内にある本県戦没者の慰霊塔「山形の塔」はじめ平和祈念公園などを訪れました。私は、38 年前の昭和 61 年 1986 年 9 月 16 日、当時板垣清一郎団長のもとに第 9 回山形県青年洋上大学寒河江市代表としての沖縄訪問以来、およそ 38 年ぶりの慰霊の訪問となりました。

① 山形の塔

糸満市の字真栄里に建立されている山形の塔に慰霊参拝を行いました。敷地面積 1,005 m²で昭和 40 年 1965 年 2 月 6 日に建立されました。合祀者数 31,495 柱うち沖縄戦戦没者 676 柱が祀られています。

塔の周りは、大変きれいに整備されておりました。沖縄戦の最前線で戦った陸軍歩兵第 32 連隊。山形県、北海道、沖縄県の出身者で編成され、およそ 3,000 人が投入された。5 か月にわたる過酷な戦いの中で、将兵の 9 割が戦死する。このすさまじい戦争の惨状を微塵も感じさせない静寂の中で、尊い命が無事帰還し、家族が待つ実家に帰ることがなかった先人の皆様に手を合わせ、二度と戦争を起こさない社会にするため、平和を守っていく覚悟を新たにしました。

② ひめゆりの塔 ひめゆり平和祈念資料館

ひめゆりの塔は、ひめゆり学徒隊の最後の地の一つである伊原第三外科壕の上

に建てられた慰霊碑で、同壕は沖縄陸軍病院第三外科勤務の職員やひめゆり学徒隊が南部撤退後に避難した壕です。1945 年 6 月 19 日朝、米軍の攻撃により、多くの生徒や教師が亡くなりました。38 年ぶりの参拝でした。

ひめゆり平和祈念資料館は、戦争の悲惨さや平和の大切さを後世に語り継ぐために、1989 年 6 月 23 日に開館し、私は初めて訪れました。ひめゆり学徒の遺品、写真、生存者の証言映像、南風原の陸軍病院壕の一部や伊原第三外科壕内部を再現したジオラマなどが展示され、当時の無残な学徒の皆さんのお一人おひとりの遺影が涙目に焼き付いています。

③ 平和祈念公園 平和祈念資料館 平和の礎

平和祈念公園は本島南部の「沖縄戦終焉の地」糸満市摩文仁の丘陵を南に望み、海岸線を眺望できる台地にあり、公園内には沖縄戦の写真や遺品などを展示した平和祈念資料館、沖縄戦で亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ「平和の礎」、戦没者の鎮魂と永遠の平和を祈る「平和祈念像」、そして摩文仁の丘の上には国立沖縄戦没者墓苑や府県、団体の慰霊塔が 50 基建立されています。

国内外の観光客をはじめ、慰霊団、修学旅行生等が多く訪れる聖地であり、観光の要所ともなっています。私たちが訪れた時も、多くの修学旅行の生徒の皆さんが、記念写真を撮ったり、かたずを飲んで資料を読んだりしておりました。

4. 所感・考察

自民党総裁選出馬のある候補者が、政治とカネの問題に蓋をし、憲法改悪を公約にしましたが、非常に残念でなりません。私は、自民党憲法改正草案の問題点について、以前から申し上げておりますが、第二次世界大戦敗戦後 80 年を経過しようとしている現在、戦前回帰の状況となっています。

さて、この夏開催されたパリオリンピックが平和の象徴とはならず、開催されている期間も一時停戦がなされませんでした。開会式や閉会式の華やかな映像とは裏腹に、ウクライナやロシア、パレスチナ・ガザ地区やイスラエルから悲惨な映像が毎日報道されていました。国連安全保障理事会がほとんど機能していないことによって、パレスチナ・ガザ地区の死者は、本市の人口を上回る 41,000 人超となりました。

パリオリンピック卓球女子団体銀メダル、女子シングル銅メダルに輝いた「早田ひな」選手が、利き腕の左手を負傷し苦しみながらも戦い抜いたその姿に、多くの人が感動を受けました。その早田ひな選手の帰国後の記者会見発言が話題になりましたが、彼女は「鹿児島の特攻資料館に行きたい」と述べ、生きていることや卓球ができることが当たり前ではないと感じたいと語りました。この発言は、彼女が平和の大切さや命の尊さを深く理解し、特攻資料館を訪れることで、戦争の歴史や犠牲を学び、現在の平和な

生活が多く犠牲の上に成り立っていることを実感したいという思いが込められています。鹿児島県には、南九州市知覧町の「知覧特攻平和会館」や、南さつま市の「万世特攻平和祈念館」、鹿屋市の「鹿屋航空基地史料館」など特攻隊関連施設があるわけですが、早田選手のこのような姿勢は、多くの人々、特に同世代の若者や子供たちに感動を与え、平和の重要性を再認識させるきっかけとなっています。

私は、9月定例会の一般質問で、これまでの経過を踏まえ、何点か提言してみました。以下、議事録の抜粋です。

世界で初めて原子爆弾が投下された「ヒロシマ」「ナガサキ」と唯一の地上戦が行われた「オキナワ」への小中学生訪問事業について

【質問】

この質問は、何度か取り上げさせていただいており、歴代教育長からご答弁されているところです。「今後、実施できるか検討してまいります」ということで、継続となっている課題ですが、検討状況についてお尋ねします。

去る6月23日79回目の沖縄慰霊の日。私は、NHKスペシャルの録画を見ました。発掘された米軍アメリカ海兵隊の戦闘記録として、通信兵が30時間録音した生々しい爆音と肉声、すさまじい映像は、まさに残酷で狂気の極み、地獄と化した琉球列島の記録でありました。米軍54万人の総攻撃を受け、日本軍10万人が奇襲作戦など壮絶な迎撃で立ち向かいました。集団自決など犠牲になった一般住民は9万人以上。日本兵のほかに米兵や外国籍の人々、全体で20万人もの貴い命も失われ、沖縄の土となっているのでございます。沖縄戦で犠牲を強いられた県民、兵士の遺骨が今もなお数多く残されており、戦後79年を経た今でも戦没者の遺骨収集が行われています。本県出身の将兵等も、32連隊に所属し、1945年8月28日まで降伏せず、沖縄南部現在の糸満市で本土防衛のために最後まで戦い、776名、本市では36名の貴い亡きながら沖縄の土になっています。

帰還された本県出身の浜本俊則氏の証言で「動けない傷病兵の運命」によれば、歩兵第三十二連隊は悲運を辿り、太平洋戦争で、沖縄県の防衛に駆り出され、山形県出身者をはじめ約3万8000人が犠牲になった。沖縄県には、こうした山形県出身の戦没者を慰霊する「山形の塔」も建てられており、今に至るまで両県の交友は続いている。山形の塔では、軍旗は天皇陛下から直接手渡しで授けられる極めて神聖なものであり、また天皇陛下の分身であると認識され、たいへん丁重に扱われたため、敵の手に渡さないようにと、焼却処分された場所でもある。と。

戦没者の貴い犠牲の上に平和を享受してきた私たちが、戦争の犠牲となった人々の

遺骨の眠る土砂を基地建設の埋立て等に使うことは人道上許されることではなく、本来であれば戦没者の遺骨は遺族の元にこそ返されるべきであり、あってはならないことでございます。

現在の広島・長崎・沖縄を訪ね、過去の悲慘な戦中・戦後の史実を学び、未来の平和の礎を築くためにも、各地への小中学生訪問を行うべきです。特に、小学校、中学校の統廃合による再編計画が決定し、児童生徒たちが違う学校の友人をつくることが大変重要になっている今、こうした学校を超えた学び、現地訪問による平和教育など充実させ、いわゆる接着剤にしていけないといけないと思います。

さて、過去の質問で県内先進自治体南陽市および最上広域市町村圏事務組合の取り組みをご紹介しましたが、本市の取り組みについてどのように検討されたのか、教育長にお尋ねいたします。

南陽市議会では、市内中学生の沖縄県の修学旅行について検討し提言するため、議会運営委員会が沖縄県糸満市と協議するため、10月9日に現地に入ると伺いました。沖縄の中学生を修学旅行で南陽市に受け入れる計画もあるそうです。本市でも、活きた平和教育にチカラを入れていただければ、中学生も平和憲法を大事にすることにつながっていくと思います。

【資料】 南陽市教育委員会

令和5年度 南陽市中中学生地域間交流セミナー事業 実施報告
(南陽市教育委員会 学校教育課 ホームページより抜粋)

1. 目 的

本セミナーは、中学校2年生を対象に、南陽市と異なる歴史や文化等を有する特色のある地域との交流事業を通して、南陽市を外から見つめ直し、地域創生に向けた愛郷心を醸成すると共に、将来の南陽市を担う自立した人材を育成することを目的とする。

2. 期 日

令和6年1月18日(木)～1月20日(土) 2泊3日

3. 行き先

沖縄県糸満市

4. 研修内容

(1)事前研修会(全3回)

第1回 令和5年12月17日(日) 9:00～12:00 南陽市役所

『沖縄県への関心を高める導入とリレーション作り』・本事業について知る。・参加者同士のコミュニケーションを図り、仲間意識を高める。・南陽市の特色(魅力と課題)を考える。

第2回 令和5年12月23日(土) 9:00～12:00 南陽市役所

『糸満市の中学生との交流会の持ち方を話し合う』・中学校との交流会の具体的な内容を決定する。・当日までに準備することを確認する。

第3回 令和6年1月13日(土) 9:00～12:00 南陽市役所『交流会の準備・リハーサル、役割分担、最終確認』・現地中学生との交流の進め方を確かめる。・あいさつなどの役割分担を決定する。

(2) 沖縄県糸満市訪問

第一日目(令和6年1月18日(木))

多くの方々に見送られ南陽市役所を出発した。バスの中では、JTB の佐々木社長から全行程の確認と沖縄県や戦争に係るお話をお聞きしながら空港に向かった。仙台は快晴、今回参加の12名中10名が初めての沖縄訪問であった。予定通り那覇空港に到着、天気は晴れ、気温は25度。バスガイドさんから三線を演奏いただいたりしながら温かく歓迎された。はじめに、旧海軍司令部壕に行き、当時のまま残る戦跡に衝撃を受け、一気に参加生徒の雰囲気が変わった。次に首里城公園に行き、令和元年の火災以降、復旧の歩みを進めている現状を見学した。確実に復旧は進んでおり、本殿の建設も進んでいることが分かった。また、沖縄の自然崇拝の精神についてガイドさんの説明から学んだ。ホテルに到着して美味しい夕食を食べ、1日目の反省や感想を生徒のリードで発表しあった。意見発表が単方向のみにならないように、人の意見に対してどう思うかを重ねていく話し合いをすることができた。2日目の行程や目標を確認して、1日目の活動を終えた。

第二日目(令和6年1月19日(金))

快晴で、気温も高く、日差しも強い。初めに訪れたヌヌマチガマでは、現地の平和ガイドの方より案内と説明をしていただいた。暗くひっそりとしたガマの中で、当時の状況を思いはかり、息をひそめながら生活、医療に従事していたことを想像し、胸が苦しくなり涙を流す生徒もいた。次に、平和祈念公園で平和の礎の説明を聞いた。また、リニューアルされた平和祈念資料館では、特設コーナーや映像資料を基に、戦争の犠牲となった方々に手を合わせた。さまざまな思いに触れ、改めて戦争の悲惨さと、平和について考えるきっかけとなった。その後、ひめゆりの塔とひめゆり平和祈念資料館を見学した。自分たちと変わらない充実した学生生活を送っていた多くの女学生が、戦争のための教育に代わり、夢半ばで亡くなったことを知りショックを受けていた。昼食後は、山形の塔で献花をし、山形県の戦没者の方々に向けて黙とうした。そして、いよいよ準備を重ねてきた糸満市立糸満中学校との交流会。2年生全員による温かい歓迎を受けて、交流会を開始した。平和について、食生活の違いについて、環境や学校生活の違いなどの話題が飛び交い、各学級で活発な交流ができた。最後にプレゼントを渡したり写真を撮影したりして、交流を更に深めることができた。糸満中には、糸満市や糸満中に

ついて紹介映像の発表、我々で準備した方言クイズなどへの積極的な参加、平和と交流の「はしわたし」という意味でお箸のお土産など、心のこもった対応をしていただいた。その後は民泊家庭での宿泊体験。それぞれの家庭で夕食を一緒に準備し、琉球衣装の着付け体験、ストラップづくり、サーターアンダギーの調理、三線の演奏など、沖縄ならではの体験をたくさんすることができた。

第三日目(令和6年1月20日(土))

民泊家庭で朝を迎え、ホストファミリーの計らいで、地域住民の方と三線の演奏などさらに交流の広がる体験をしたグループもあった。民泊解散式に集合した際には、わずか一晩だけの民泊体験だったが、本当の家族のように関わっていただいたことで、寄り添いながら笑顔で語りあうホストファミリーと生徒の姿があった。今後の連絡や再会を約束し、お別れした。その後、瀬長島のウミカジテラスを車窓から眺めながら、空港に向かった。バスの中では、ガイドさんから沖縄の方言の歌などをプレゼントしていただき感激していた。空港や飛行機の中では、名残惜しそうに沖縄の地を眺める様子が見られた。仙台空港から市役所に到着するまでのバスの中では、3日間で特に心に残ったことなどを一人一人が自分の言葉で語りながら過ごした。解散式では、代表生徒が、「この体験を通して学んだことを自分達だけのもので終わらせることなく発信し、自分自身も今後の生活に生かしていきたい。」と発表し、意気込んでいた。

(3)事後研修会 令和6年1月27日(土) 9:00~12:00 南陽市役所

- ・セミナーを通し、これからの南陽市に向けた自分たちの考え、発信のしかたをまとめる。
- ・糸満市の中学校や民泊家庭へのお礼状を書く。
- ・一番印象に残ったこととこれから自分(たち)がすべきことについて発表する。

5. 参加生徒の感想等

- 「平和」について 私たちと同じように平和な毎日を送っていたはずの彼女たちが、「なぜ戦争に参加しなくてはいけなかったのか」と強く疑問を持つようになり、そして、平和 とは何なのか考え直すようになりました。生存者の証言映像も拝見し、当時の状況がいかに残酷で恐怖だったのかこれまで以上に深く知ることができました。この世の中には、戦争はどんなに恐ろしくて、悲惨なことなのかわからない人はたくさんいると思います。今回学んだことを無駄にせず、少しずつこの世の中に広めていきたいと思っています。
- 人の温かさについて 実際に沖縄に行ってみて、フレンドリーで心が温かい人がたくさんいる沖縄は、戦争という悲惨な出来事と向き合い、そして前を向いて進む中で生まれた温かさなのだと感じました。
- 交流と文化の違いについて 私のグループでは「食文化と自然」をテーマに交流をし

ました。クイズも盛り上がり楽しい雰囲気での交流会となりました。糸満中からの発表では旧暦の文化が強く息づいているため、お正月は2月10日ということや、周りが海で囲まれている糸満市だからできる糸満ハーレーという伝統のお祭りのことを教えていただきました。交流の中でも校舎の中を土足で歩いている様子を目の当たりにしてとても驚きました。私にとって学校内を土足で歩くという概念は全くなかったので視野が広がるきっかけとなりました。

【写真 略】旧海軍司令部壕 首里城公園 ひめゆりの塔 平和祈念公園 ヌヌマチガマ 優美堂(昼食) 山形の塔 民泊(琉装体験) 糸満中との交流会 民泊(三線体験) 民泊解散式

【資料】最上広域市町村圏事務組合の沖縄中部広域圏交流事業

○概要

山形県最上広域市町村圏事務組合と沖縄県中部広域市町村圏事務組合は、双方の政策顧問である東京工業大学名誉教授（当時）の阿部統先生の紹介により、昭和63年 7月に全国で初めて姉妹広域圏の締結をし、以後交流がはじまった。交流の基本方針は、気候風土、自然環境、歴史、文化の全く異なる圏域が交流を通じて新たな可能性を追求し、21世紀に向けての人づくり交流、文化交流、特産品の交流等を活発化させ、両圏域の振興を図ることを目的とする。

○報告

令和5年9月5日(火)～8日(金)

令和5年度少年少女沖縄派遣交流事業を実施

本交流事業は、最上地域の児童が生活習慣の異なる沖縄中部広域の子どもたちとの交流を通して、将来の最上地域を担う人材を育成するために、平成元年から実施されています。

今年度は、1月に最上地域に訪れる児童、嘉手納小学校、北谷町の子供たちとの児童交流や、道の駅かでな、首里城を見学して沖縄の文化を学ぶことができました。

全4回の事前学習会で練習してきた、歌や花笠踊り、最上クイズの発表も好評で、沖縄の子どもたちが最上地域について興味を持ってくれる様子も見られました。

3年振りの沖縄派遣交流事業でしたが、大きなトラブルもなく、交流事業を実施することができました。

5. むすびに

寒河江むかしさがし（市史編纂委員 宇井 啓）から転載

日露戦役の時、三泉村出身の兵士は 12 名。その中に入倉の船田五郎(博家)がいた。五郎は、山形連隊の訓練を経て、極寒の黒溝台の激戦を経て帰郷した。その子武雄も近衛兵として皇居整備に当り 2・26 事件に遭遇。翌昭和 12 年の夏、中国大陆に渡り決死隊を指揮。激戦の最中、ムラの神様や家族の幻影を見たという。再び昭和 17 年の出征の時も、ムラの中の大神宮・金毘羅・荷渡・明星・愛宕などすべての小祠に武運長久を祈り、地藏様の前の広場で入倉の壮行式にのぞんだ。酒・豆・田作・数の子が出て、万歳で送られた。

三泉村では役場の前で激励をうけ、小学生の楽隊に送られて、ハカセの前を通り、寒河江川橋南の柳の下で村人と別れた。再び柳の下を通って、ムラに帰れない人たちがいた。武雄の弟鶴雄は、サイパン島で玉碎。22 歳。30 戸に満たぬ入倉の戦死者は、若い人 8 名だった。なかでも、中村政行家では 3 名を失った。父とその弟はフィリピンで、もう 1 人の弟は岡崎市上空で B29 に体当たりして果てたという。家族を思いながらも生還できなかった人は、三泉村全体で 103 名。柳の大木は、この人たちの姿を再び見ることはなかった。

船田家の奥屋敷。ズラリと戦争の世紀の感状が並ぶ。男まさりに働いて銃後を守った武雄の奥さんも居って、今なお戦争の記憶を色こくとどめていた。

本市の遺族会会長の三泉入倉にお住いの中村政行氏から戦死者の遺族台帳を拝見したことがあります。まだ議員になって間もないころ、2015 年の夏でした。

そして私たちが行政視察から帰郷した翌日の 10 月 11 日、今年のノーベル平和賞を、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)に授与すると発表しました。被爆者の立場から世界に核兵器廃絶を訴えてきた活動を、高く評価したと伝えています。ノルウェー・ノーベル委員会のヨルゲン・ヴァトネ・フリドネス委員長は、広島と長崎の被爆者による草の根運動の日本被団協が「核兵器のない世界実現を目指して努力し、核兵器は二度と使われてはならないのだと目撃者の証言から示したこと」を授賞理由としました。是非、本市の小中学生の修学旅行訪問地に、被爆地や地上戦の激戦地の戦災遺構を学習していただく意義がさらに高まったのではないのでしょうか。

今回の行政視察地となった沖縄訪問は、人生で 2 回目の有意義なものとなりました。糸満市議会事務局様、政策推進課様、教育委員会生涯学習課様には、大変御多忙のところ快く受け入れをいただきましたこと、衷心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



(写真)糸満市議会にて撮影 筆者は右端

様式第2号

視察研修先	沖縄県うるま市	氏 名	渡 邊 賢 一
視察研修項目	「農業振興プロジェクトについて」		

1 はじめに

うるま市は、沖縄本島中部に位置し、人口 125,977 人(2022 年 1 月時点)、面積 87.0 km²の沖縄県で 3 番目の規模を誇る都市です。「うるま」とは、沖縄の方言で「サンゴの島」という意味があり、市内の月別平均気温は 17～29℃のため、どの季節も温暖で過ごしやすのが特徴です。

代表的な観光スポットには、世界遺産に認定された「勝連城跡」や、白い砂浜と青い海のコントラストが美しい「宇堅ビーチ」などが挙げられます。「勝連城跡」は、15 世紀に琉球王国の国王、尚泰久王(しょうたいきゅうおう)と戦い敗れた按司の阿麻和利(あまわり)が住んでいたとされる城跡です。現在は、首里城跡と並んでユネスコ世界遺産に認定されています。城跡の頂上は、絶景スポットとして知られており、知念半島や沖縄北部の自然豊かな地域「やんばる」を一望できます。夕日や夜景も綺麗に見えるので、どの時間帯にいても楽しめます。最近では、「開かれた世界遺産」として全国にアピールするため、コスプレなどのイベント会場としての使用もはじまっています。

うるま市ホームページより抜粋 <https://www.city.itoman.lg.jp/>

2 視察項目

(1) 農業振興プロジェクトの商品開発について

質問事項

① これまでの実績と人気ランキング
1位 マンゴウ 2位 アップルバナナ 3位 さつまいも加工
モズク生産量日本一

② 観光客のお土産品評価の集約方法
特になし アンケートなど

③ 独自のオリジナル商品の著作権
いぐさ 畳の材料を食に青汁

④ 広報・PR の課題
イベント開催で広げる

- ⑤ 農業・商工業との連携
6次産業化の加工品開発
うるマルシェの効果
酒蔵 4軒
- ⑥ 商工業におけるブランド品など実績
ふるさと納税 沖縄県内第1位
- ⑦ 観光業における観光誘客の実績
エイサー祭り 12万5千人 17億円
コスプレフェス 2日間7千人 うち600名は九州など県外から
- ⑧ 貴市全体の経済効果
闘牛 ロードレース エイサー祭りなど
- ⑨ 今後の課題と展望
県内自治体の競争に勝ち抜くオリジナル性を追求

(2) うるま市農水産業振興戦略拠点施設「うるマルシェ」

① 概要

うるま市農水産物に特化した農水産物直売所、加工施設、飲食施設等の複合機能を有機的に連動させ、スケールメリットを生かした需要喚起とさらなる供給拡大の相乗効果を図り、本市生産品のブランド化による販路拡大、地産地消、地産外商、6次産業化を推進し経営耕作地及び生産量の拡大、担い手の確保・育成など、第一次産業の持続・振興的な発展に寄与する施設



(写真)豊富な農産物が並びにぎわう「うるマルシェ」店内全景

② 基本理念と予算

「食を通じてうるま市を元気にする」 経済成長エンジン

2018年開設 予算

沖縄振興特別推進交付金 18億円

うるま市予算 9億円 合計 27億円

③ 施設の魅力満載

営業時間 9:00~20:00

農産水産畜産品直売所 生産農家が出荷販売 やりがいと収入が連動

イベント広場 土日祝日にお祭りや舞台を披露 発表ステージ

産直レストラン 地元産農畜水産物を使ったメニュー

産直加工品販売ブース ご当地バーガー 沖縄そば ヤギ汁など

キッチンスタジオ 野菜ソムリエやシェフによる料理教室が人気

加工施設 ベーカリー・ジェラート工房 規格外品の活用

情報エリア 情報共有 学びの場

うるまなびマルシェ

④ 農家及び漁家の出荷者登録状況と売上実績 2022年

会員数 1030名 農家が35% 漁家15%

売上 15億円 うち4億円が農家に還元

来場者数 118万人

海豚・うるま牛 生産農家の全量買い取り

海産物 漁師から全量買い取り

契約栽培・契約出荷により市内の生産者・漁家の産直をバックアップ

⑤ ブランド品開発

うるまの海豚 うるま牛 レトルト食

⑥ 6次産業化と加工施設の状況

契約期間2年で更新

小麦・大豆文化復活

うるまの台所 牛汁

⑦ 飲食施設の人気ランキング

いいだこ お魚のバター焼き

⑧ ふるさと納税返礼品

2023年 3億円

1位 塩

2位 観葉植物

モズクの生産量日本一

3. 資料

(1) 移住定住の PR サイト

都会と田舎両方の良さを兼ねているうるま市

うるま市内にはスーパーやコンビニ、大型ショッピングモール、病院などがずらりと立ち並んでいます。鉄道は走っていませんが、沖縄バスや那覇バスなどの4社のバスが運行しているため、車を持っていない方でも、市内外に気軽にアクセス可能です。

市内はエメラルドグリーンの東シナ海に囲まれており、サマーシーズンは、シーカヤックやサーフィン、ダイビングなどのマリナクティビティが楽しめます。また、うるま市に属している伊計島や宮城島などの8つの離島には、沖縄の大自然や伝統的な住宅が残存。そのため、「緑豊かな田舎に移住したいが、便利な都会も捨てがたい」という方の移住にもおすすめです。

(2) 生産者の皆さんの声

生産者の紹介のほかに、特産品の魅力についてアップされています。これは、本市の農業の将来に向けて学ぶべきサイトです。下記は、これらからピックアップしたものです。

過疎化が進み、子育て世代は激減、学校も廃校の危機という津堅島では、耕作放棄地が激増しています。うるマルシェではこの課題の解決に少しでも役に立ちたいという思いで、2021年にうるま市の協力の元、1ヘクタールの耕作放棄地を確保し小麦を植えました。再来年には5ヘクタールの耕作放棄地に麦を植える予定です。なぜこの様な取り組みを始めたのか？というのと、、、島で稼ぐことができれば、この風光明媚な土地に子育て世代が移住してくるはずだ、、、という思いで、移住者の為の仕事を生み出す取り組みを始めています。小麦を育て、収穫した小麦を使って加工品を作る。そこに労働力が必要になる。子育て世代でかつ移住をしたいとお考えの方を雇用することで、過疎化を少しでも防ぐことができるのではないかと考えた上で始めた直営農場になります。うるま市を中心に沖縄県内で自然栽培で育てられた『島麦かなさん』を使った、うるマルシェでしか購入できない商品がたくさんあります。うるマルシェオリジナルの商品から、うるマ

ルシェに出品いただいている事業者の皆様が、県産小麦の消費拡大への取り組みにご賛同いただき、たくさんの商品に島麦かなさんを使っていただいています。

沖縄県うるま市石川で純沖縄県産のブランド黒毛和牛「山城牛(やましろぎゅう)」を生産する「山城畜産」は、A5～A4 ランクの肉用牛を安定的に生産する技術で県内屈指の実力を誇る農家。あっさりクセのない味わいと肉質の柔らかさに定評があり、品評会でも数々の賞を受賞しています。

[生産者紹介 09. 高江洲製塩所 高江洲優さん\(沖縄・うるま市勝連\) - うるマルシェ \(urumarche.com\)](#) これは、ふるさと納税返礼品の人気ランキング第一位

4. 所感

うるマルシェはチェリーランドや JA アグリランドにもない魅力がたくさんある施設でした。感じたことを率直に述べたいと思います。

私は、2024年6月6日の6月定例会本会議一般質問で、県産果樹の情報発信施設として県が進めようとしていたフルーツ・ステーション整備計画(素案)の見直しによる影響について、市長に本市の立場を質しました。県では、消費者に実際に本市をはじめ県内のフルーツ産地を訪れてもらい、農業体験や旬のフルーツを使ったスイーツなど様々なフルーツの楽しみ方や、それを通した産地・生産者との交流等を経験する「フルーツ・ツーリズム」を推進しています。本県の「フルーツ・ツーリズム」の推進に当たっては、県内の果樹園や飲食店を始めとしたフルーツを楽しむための目的地が充実し、魅力的であることが重要です。山形県の旬のフルーツやその加工品を飲食することはもちろん、収穫や加工の体験、栽培方法や歴史の学び、生産者との交流など、山形でしか味わえない様々なフルーツ体験ができる場所を創出することによって、観光客に地域のフルーツを深く知ってもらい、ファンになってもらうことを目指しています。このため、フルーツを楽しめる様々なサービスやイベントが提供され、特にその地域の特産フルーツについて理解を深めることができる誘客と情報発信の場を「フルーツ・ステーション」と位置付け、県内各地の「フルーツ・ステーション」を巡る観光旅行の促進に取り組む計画でした。

こうした動きを通して、さくらんぼを始め、西洋なし、すいかやメロン、もも、柿など、地域を代表する主要なフルーツを発信する場が県内各地に広がり、ネットワークを形づくることで、あたかも県全体がフルーツをテーマにした「体験型ミュージアム」のように、県内の季節ごとの様々なフルーツを認知する場として機能し、消費の拡大と産地への回遊に寄与することが期待されます。ステーションは、県内各地で、既存施設の機能拡充や、期間限定での設置といった、多様な形態で設置されることを想定します。設置や運営も、官民を問わず、創意工夫を活かして誘客や情報発信を行う意欲のある主体が担うことが期待

されます。山形県での「フルーツ・ツーリズム」を通した様々な体験価値を通じて旅行者が山形のフルーツのファンとなり、自ら発信することによって、「フルーツを楽しむなら山形県」というブランディングが強化されることが期待されます。

県では、フルーツを消費地で購入するだけでなく、実際に山形県の産地を訪れ、農業体験や旬のフルーツを使ったスイーツなど様々なフルーツの楽しみ方や、生産者との交流等を経験できる、山形のフルーツ産地ならではの観光の仕方、いわゆるフルーツツーリズムを推進してきました。具体的には、「さくらんぼを核とする県産フルーツの情報発信実行計画」に基づき、消費者が本県を訪れ、様々なフルーツの楽しみ方や生産者との交流を経験する「フルーツツーリズム」の推進と、その目的地となる「フルーツ・ステーション」の県内各地域への創出とネットワーク化に向けて取り組んでいます。その一つに、県内各地域の資源や人材を活かしたフルーツ・ステーション創出の取組みを促進するため、各地域でのフルーツ・ツーリズムの活性化やフルーツ・ステーションの創出とネットワーク化について検討を行う場として「フルーツ・ステーションネットワーク推進プラットフォームを設置する計画」でした。

こうした計画が、残念ながら白紙になってしまったことは、実に、県民から期待されていた取り組みに対する本市へのマイナスの影響が計り知れないと思います。さくらんぼ会館のリニューアル整備に向けて、今回の視察は非常にタイムリーなものになりました。今回視察をさせていただいて、さらに強く感じたところです。特に、うるマルシェのキッチンスタジオや畜産物お魚などの海産物の全量買い付け、ふるさと納税返礼品人気第1位の塩などたくさん学んだことを、今後執行部に提言させていただく予定でございます。

5. むすびに

今回の行政視察地となった沖縄訪問は、人生で2回目の有意義なものとなりました。特に、うるま市うるマルシェを視察させていただき、先進的な取り組みによって大きな成果を挙げられていることは、本市の農林水産業、商工業、観光業および本市全体の理想となる契約栽培や全量買い付けなどの振興策は、大変勉強になりました。

最後になりましたが、うるま市議会事務局様、生産振興課様、商工振興課様、観光イベント課様およびうるマルシェ指定管理者(株)ファーマーズマーケット様には、大変御多忙のところ快く受け入れをいただきましたこと、衷心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



(写真)うるま市議会事務局様、生産振興課様、商工振興課様、観光イベント課様

およびうるマルシェ指定管理者(株)ファーマーズマーケット様にごあいさつする視察団

様式第2号

視察研修先	沖縄県地方自治研究センター	氏 名	渡 邊 賢 一
視察研修項目	「地方自治研究の成果と課題について」		

1 はじめに

第2次世界大戦の敗戦から79年を経た今日、核のない平和な社会実現に向けた平和教育について、新聞報道によれば、米兵による16歳未満の少女への誘拐と不同意性交事件、すなわち昨年12月に米空軍兵長が、16歳未満の少女を車で誘拐して同意なく性的暴行を加えたとして3月27日付で那覇地検が起訴していたことが明るみに出ました。3月の起訴時点で事件を把握していた外務省及び沖縄県警は、沖縄県には6月25日に報道があるまで3か月以上も情報提供をしていなかったというのです。

これまでも米軍人・軍属等による事件が発生し、今回の米兵による蛮行に激しい怒りと憤りを覚えるとともに、改めて国民、沖縄県民に強い衝撃と不安を与えています。

この度、本市議会に対し、沖縄県民の尊い生命と人権を守る立場から今回の事件に対し、厳重に抗議するとともに、県内在住の市民より「日米地位協定の抜本的改定を求める意見書の提出を求める」陳情が出されました。先日開催された総務産業常任委員会協議会におきまして、討論ののち、委員長を除く委員の採決の結果、賛成少数により、今議会において審査しないことになったことは、非常に残念でなりません。全国知事会や本県の県議会を含む245の地方議会において採択され、意見書を提出しているからなおさらです。先日には、鶴岡市議会において全会一致にて、採択されたことについて、市民の皆様にはしっかりお伝えしなければならないと思います。

2 視察項目 沖縄県内の現状と課題

(1) 米軍基地による騒音・悪臭等環境汚染について

① 土壌汚染問題
米軍から返還された基地敷地からは、土壌汚染により高濃度の化学物質が検出されており、カドミウム、六価クロム、廃油などで上水道の水道水の安全が脅かされている。

② 24時間騒音問題
嘉手納基地 一日50～60回
普天間基地 一日30回
120デシベルの騒音で悩まされる 幼児も戦闘機やオスプレイの音を聞き分ける

③ 落下事故問題
繰り返される機体部品落下の恐怖

④ 不発弾処理問題

いつ爆発事故が起きるかわからない

住宅建設の際、出てくることが多く、磁気探査機器で地盤調査を行う

那覇空港にも多数埋没

⑤ その他

火薬の残りが発見され泡消火剤も使用

(2) 辺野古基地建設による自然破壊について

① サンゴ礁破壊

② 白い砂浜が消滅

③ 豊富な資源と5000種類の生物が危機

④ 自然学者・環境学者が強く警鐘を鳴らす理由

1 大浦湾側は深い谷底地形となっており、大規模な軟弱地盤が存在しています。

2 最も重要な地点の地盤調査が行われていません。

軟弱地盤が海面から 90 メートルの深さに達する B-27 地点については、未改良地盤が残らざるを得ないにも関わらず、地盤の強度の把握を目的とした力学的試験すらも行われておらず、地点周辺の性状等が適切に考慮されておられません。

3 工事の方法は国内で初めてのものです。

地盤改良として改良径 2 メートル及び 1.6 メートルの砂杭を、東側護岸の約 1 キロメートルに約 1 万 6 千本打設することとなっており、その打込深度 70 メートル以上に対応可能な国内のサンド・コンパクション・パイル作業船 3 隻すべて使用し、しかもそのうち 2 隻は改造が前提となるなど、前例のない大規模かつ高度な地盤改良工事を実施するものです。

4 設計の安全性が十分ではありません。

大規模な軟弱地盤が存在し、国内で前例のない大規模かつ高度な地盤改良工事を行うにもかかわらず、最も重要な地点の地盤調査が行われておらず、しかも、設計上の安全性が十分に確保されていないという問題があります。

(3) 反戦・反基地・平和運動の前進に向けて

① 日米地位協定見直しが必要

② 沖縄から米軍基地移設を

沖縄県ホームページから

なぜ辺野古新基地に反対するか、4つの理由

①既に異常としか言いようのない過重な基地負担を抱えていること。

②辺野古移設に反対する民意があること。

③辺野古・大浦湾の豊かな自然環境が破壊されてしまうこと。

④辺野古移設では普天間飛行場の一日も早い危険性の除去にはつながらないこと。

3. 資料

沖縄県の見解

沖縄県は、日米安全保障体制や自衛隊の必要性を理解する立場です。

沖縄県は、「基地のない平和の島」の実現を目指していますが、現在、次に示すような現存する多くの米軍基地・自衛隊基地の全てをなくすことを政府に要望しているわけではありません。

沖縄県には、普天間飛行場(米海兵隊)のほかにも、極東で最大かつ最も活発な米空軍基地とされる嘉手納飛行場(米空軍。面積約 2 千万平方メートル、長さ約 3.7 千 m の滑走路 2 本)や、キャンプ・ハンセン(米海兵隊。実弾射撃訓練などの訓練地区を含み、面積約 5 千万平方メートル。)、キャンプ・シュワブ(米海兵隊。普天間飛行場を移設しなくとも、ヘリコプターの訓練や水陸両用訓練、実弾射撃訓練等を行うことが可能で、面積は約 2 千万平方メートル。)、牧港補給地区(米海兵隊。主に倉庫地区、隊舎地区、住宅地区からなる。海兵隊のみならず在沖米軍の整備・補給等の兵站基地としての役割を担っている。面積は約 270 万平方メートル。)、キャンプ・コートニー(米海兵隊。有事に際し空陸一体となった即応作戦を展開する実戦部隊が配置。面積は約 130 万平方メートル。)、キャンプ・瑞慶覧(米海兵隊。海兵隊基地司令部等が使用し、海兵隊の中枢機能を有している。面積は約 5 百万平方メートル。)、トリイ通信施設(米陸軍。グリーンベレー部隊などが駐留。面積は約 190 万平方メートル。)、那覇港湾施設(米陸軍。港湾施設を有し、揚陸艦等が利用。面積は約 60 万平方メートル。)、ホワイト・ビーチ(米海軍。長さ 850 メートル及び 450 メートルの二つの栈橋を持ち、面積は約 150 万平方メートル。)など、31 の米軍専用施設があり、その総面積は約 1 万 8 千ヘクタール、本県の総面積の約 8%、沖縄本島の約 15%の面積を占めています。国土面積の約 0.6%しかない沖縄県に、全国の米軍専用施設面積の約 70.3%が集中しています。

また、陸上だけではなく、沖縄県及びその周辺には、水域 27 か所、空域 20 か所が訓練区域として米軍管理下に置かれています。

さらに、本県には、米軍基地だけではなく、F15 戦闘機 40 機程度などを有する航空自衛隊那覇基地をはじめ、55 の自衛隊施設(総面積約 780 万平方メートル)が存在しています(令和 3 年 3 月末時点)。

安全保障は我が国全体の問題です。安全保障が重要であるならば、その負担の在り方も我が国全体で考え、分かち合う必要があります。沖縄の過重な基地負担は軽減される必要があります、沖縄にこれ以上新たな米軍基地は必要ないと考えています。

4. 所感

本市の市議会3月定例会及び9月定例会に県民から下記の内容の(第1号・第5号)陳情が提出されました。

総務産業常任委員会では、両陳情についていずれも審議すべきでないということを多数決によって決定しましたが、私は審議すべきと賛成討論を行いました。

なお、この陳情第5号については、石破新総理が支持・主張している内容であり、鶴岡市議会においては、先日9月議会で全会一致にて願意妥当として、採択しているものです。

○陳情第1号

陳 情 書

地方自治と沖縄の自己決定権を尊重し沖縄県との十分な対話で基地問題の解決に臨むことを国に求める意見書に関する陳情

陳情趣旨

2023 年 12 月 20 日、最高裁は国が県知事の権限を奪う代執行を認めましたが「国と地方は対等」と位置付けられた地方自治法の理念と沖縄の人々の自己決定権を蔑ろにした理不尽な判決は令和の琉球処分と揶揄されています。2024 年1月「日米政府は沖縄への軍事植民地支配をやめよ」とノーベル平和賞受賞者、映画監督など欧米の有識者 400 名が署名した国際声明文が日米両政府と国民に宛て提出され、辺野古移設問題は自然環境や人権問題の観点からも世界の良識のある人々から注目されています。安全保障が国の役割であっても自治体に理解を求め対話で問題解決を図るべきです。一日も早い普天間飛行場の危険性除去の実現が社会公共の利益であるならば、早期に完成が不可能であり工費が無限に膨らむ辺野古への移設が唯一の解決策であるのか立ち止まって考える必要があります。

裁判官は判決要旨で「沖縄では地上戦が行われ、多くの県民が犠牲になったことや、戦後も銃剣とブルドーザーにより米軍基地が建設されていった歴史的経緯などを踏まえ

れば、県民の心情は十分に理解できる」と述べ、そして更に「国としても県民の心情に寄り添った政策実現が求められる。普天間飛行場の代替施設を巡る一連の問題に関しては、国と県とが相互理解に向けて対話を重ねることを通じ抜本的解決の図られることが強く望まれる」と付言しました。しかし 2024 年 1 月 10 日、政府は沖縄県知事の対話の求めに応ずることなく広大な軟弱地盤を抱える区域の工事に着手を強行し沖縄の苦難の歴史にいつそうの苦難を加えました。日本国民は周知のことですが、80 年前の戦争では「本土防衛」のために沖縄に日本軍の基地が建設され凄惨な戦場になりました。

今も不発弾と戦争犠牲者の遺骨が土の中から発見されています。戦後、米軍統治下では銃剣とブルドーザーで無理やり米軍基地が建設されましたが、沖縄では日本政府によって今もそれと同じことが繰り返されているのです。しかし私たち日本国民はそのような過ちを二度と繰り返さないために憲法を有しています。国はこれを遵守し、地方自治法と憲法 13 条、14 条に示されている人権及び沖縄の自己決定権を尊重し全ての国民に寄り添った政治を行い、沖縄県との対等な対話により問題を解決するよう求めます。

以上の趣旨から、下記事項についての意見書を国及び関係機関に提出することを求め陳情致します。

陳情項目

- 1 地方自治法を遵守し沖縄県との対等な対話により問題解決に臨むこと。
- 2 沖縄の自己決定権を尊重し軍事植民地支配をやめること。

令和6年2月21日

沖縄に応答する会 代表 漆山ひとみ

○陳情第5号

陳 情 書

国民の命を守るために早急に日米地位協定の抜本的改定を求める意見書の提出についての陳情

陳情趣旨

在沖米軍米兵による「16 歳未満の少女に対する誘拐性暴力事件」が昨年 12 月にあったことが、今年6月の沖縄慰霊の日の後に、報道で明らかにされました。なぜ沖縄の少女がこのような目に遭わなければならないのか。これまで幾度となく起きる事件・事故のたびに問われてきた沖縄の基地過重負担の是正、日米地位協定見直しをなおざりにし、基地がある故に再発する事件・事故を防ぐことのできなかった私たち大人に責任があるのではないのでしょうか。更に米軍関係者の性暴力事件が、昨年以降5件も沖縄で発生していたことが最近分かりました。「被害者のプライバシーを守ることを口実」に、事件が沖縄県と県民に速やかに報告されず隠されていたことにより、さらなる事件が起きました。性暴

力は人格を否定し、人間の尊厳を破壊する犯罪であり、被害者は今も PTSD に苦しんでいます。行政機関にはこのような事件から子供たちを守る責任があります。

事件・事故のたびに、国民の命と安全を守るべき国は、「綱紀肅正と再発防止」を言ってきましたが対策に実効性がなく一向に事態は改善されておらず、「加害者米軍・米兵に特権を与える理不尽な地位協定の実態」があからさまになっています。

沖縄では復帰後に、米軍関係者が 6,235 件検挙されています。うち殺人や不同意性交などの凶悪犯は 586 件。戦後 79 年経ても基地がある故に命が脅かされ、人権が蹂躪され続けている沖縄の状況は、安全保障問題は国の専管事項だと、そのままにしてきた地方議会にも責任があります。

8月 13 日、沖縄国際大学での米軍ヘリ墜落炎上事故から 20 年です。機体の破片は半径 300 メートル、住宅密集地など 50 か所に飛散し、現場は事故直後から7日間米軍が封鎖、大学学長の立ち入りや消防・警察の現場検証まで拒否され、日本の主権が侵害され、大学が米軍の占領下に戻ったのです。

沖縄県には 31 の米軍専用施設が有り、20 年間で 595 件の米軍機関連事故が発生。安全保障の問題が国の専管事項ならば、政府が率先して責任を持ってこの不平等で理不尽な地位協定の改正に乗り出す義務があります。そして基地周辺地域住民が安全安心に暮らす権利と地方自治を尊重し沖縄県を交えて話し合いが求められ、独立国として日本の主権を守り、日本の法律や規則を米軍が遵守するよう「日米地位協定の抜本的改定」に向けた議論が必要です。地位協定を他国並みに（ドイツ、イタリア、韓国は改定済）対等な関係の協定にすべきです。

2004 年 7 月 16 日に、全国知事会が、日米地位協定の抜本的見直しを決議し、それを受けて「地位協定 2-4-(b)で米軍が一時利用可能4施設」がある山形県は、12 月 17 日議決しました。（日米地位協定見直し意見採択 36 都道府県）また、2018 年 8 月 15 日全国知事会は、「日米地位協定の見直しを含む『米軍基地負担に関する提言』」を行い、以後 245 地方議会が意見書を採択しております。よって、貴議会も下記事項についての意見書を地方自治法第 99 条の規定により国及び関係機関に提出することを求め陳情いたします。

陳情項目

1 国会で早急に、日米地位協定の抜本的改定の議論をはじめること

令和6年8月21日

沖縄に応答する会 漆 山 ひとみ

5. むすびに

今回の行政視察地となった沖縄訪問は、人生で 2 回目の有意義なものとなりました。特に、沖縄県地方自治研究センターを視察させていただき、自治体の課題に対する先進

的な取り組みによって大きな成果を挙げられていることは、本市の平和行政および本市全体の市民との協働や環境対策など大変勉強になりました。特に、本年1月27日に石垣島大浜会館において開催されました「石垣自治研集会」における貴重な研究資料をご提供くださいましたことに心から御礼申し上げます。

最後になりましたが、全日本自治体労働者団体連合会沖縄県本部内地方自治研究センター様、自治労沖縄県職員労働組合様におかれましては、大変御多忙のところ快く私どもの行政視察を受け入れをいただきましたこと、衷心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



(写真)沖縄県那覇市にある地方自治研究センターにてご教示を賜る

様式第2号

視察研修先	沖縄県那覇市	氏 名	渡 邊 賢 一
視察研修項目	「小中学生への平和教育」「こども誰でも通園制度」について		

1 はじめに

1972 年(昭和 47 年)5 月 15 日、多年の要求であった祖国復帰が実現し、日本国憲法が適用される中で、那覇は沖縄の県都として都市基盤が一層整備され、今日人口 32 万、市域面積 39.98 平方キロメートルの近代都市となっています。現在、2018 年(平成 30 年)に制定された第 5 次総合計画「なはで暮らし、働き、育てよう！笑顔広がる元気なまち NAHA～みんなでつなごう市民力～」に沿って、21 世紀にふさわしい都市の実現に取り組んでいます。

この度、会派行政視察研究先として、那覇市議会様を通じて教育委員会様及びこどもみらい課様から標記の研修項目でご教示を賜りました。以下、要点を簡潔にご報告させていただきます。

なお、訪問させていただきました10月10日は、奇しくもじゅうじゅう空襲の日で、沖縄戦で多くの死者が出た悲しい日でもありました。

2 視察項目

(1) 小中学生への平和教育について

那覇市平和宣言 「生きぬき築きあげた都市」

那覇一その戦後は
米軍のバリケードで囲まれた焼け野が原から出発した
はじめに 103 人の市民が生きぬいてもどった
なつかしい壺屋のまちに
多くのいのちを失い
ふるさと那覇も消滅し
悲しみは深かったが
打ちふるう復興の鍬には力があふれ
みんなまなこを
しっかり前へ向け
踏み出した
生活と都市再建への一步を
それから

心のいしじを固く敷きつめ
平和通りをつくり
国際通りを開け
もう二度と失うことのない
那覇を築いてきた
ここにくるまでに 50 年
103 人は 31 万人へとかわった

那覇一それは戦争をしない都市
那覇一それは市民の愛が守るまち
那覇一それは市民が主人公の都市
那覇一それは世界の都市を友とするまち

私たちは いま、ここに
市民の誇りと勇気により蘇った
都市・那覇を世界に宣言する

1995 年・沖縄戦終結 50 年宣言 那覇市

① 平和教育

平和教育担当教諭向け研修

毎年5月に対馬記念館にて、沖縄戦体験者による講話、対馬丸記念館の利活用、施設見学、周辺慰霊碑・顕彰碑見学、情報共有などを実施している。

② 平和学習

6月に平和月間・平和旬間を設定し、慰霊の日に係る平和教育の取り組みを重点的に実施している。平和集会、平和資料展示、映画やDVDによる視聴、校内放送、慰霊塔や戦跡巡り、教科等新聞記事の活用、平和の礎刻銘者500名分を各学校のリモートでつなぐ、JICA 沖縄の講師から講話、他県の中学生との交流などを行っている。

③ 絵画コンテスト

沖縄県平和祈念資料館主催「児童・生徒の平和メッセージ」作品募集に応募

④ パネル展

那覇市総務部平和交流・男女参画課 平和に関するパネル展開催

「平和の大樹」に係るメッセージカードに応募
応募されたメッセージを市役所1階に展示

⑤ 交流事業

「那覇長崎平和交流事業」中学生対象に実施

「対馬丸平和学習交流事業」県内小学校5～6年生、中学生及び保護者参加

⑥ 先進自治体の紹介

埼玉県和光市 沖縄戦の平和学習を実施

(2) こども誰でも通園制度について

① 試行的事業による実績

「こども誰でも通園制度」とは 国が創設を目指す「こども誰でも通園制度」は、保育所などの利用要件を緩和し親が就労していなくても時間単位などで子どもを預けられるようにする新たな通園制度です。新たな制度は、子どもにとっては保育の専門職がいる環境で家庭とは異なる経験ができたり同世代の子どもなど家族以外と関わる機会が得られたりするほか、親にとっても育児負担の軽減や孤立感の解消につながるなど期待されています。

那覇市の試行モデル事業実施

久場川みらいこども園

一般型 0歳から4歳児 1時間300円負担だが2024年度は無料

選定理由 一時保育の実績とノウハウあり

2024年8月1日から2025年3月1日 予定

自由利用なし 通園利用として定員44人

98人応募で優先順位をつけて選抜

② 本格実施に向けた課題

10時間上限の是非

利用料金 設定

食事提供、おやつ提供

キャンセル対応

キャンセル待ちへの利用

職員配置と人材確保

研修及び検証を踏まえた対応

3. 資料

識者の意見(NHK ホームページより抜粋)

大阪教育大学 小崎教授

「『こども誰でも通園制度』は本当の意味で保育を必要としている人たちに門戸が開かれたという見方もできる。ただ、通常の保育は、1 週間継続をするなかで、子どもたちの成長や発達を保証するものだ。『こども誰でも通園制度』は、今までの保育の前提とは違う、大きな変更だと感じる。制度設計がまだ見えない点も相まって、現場は不安感、負担感を感じている。疲弊した保育現場を知ってもらい、そのうえでモデル事業を通して十分な検証と現場への説明が必要だ。」

4. 所感

「こども誰でも通園制度の試行」は、山形県では山形市のみですが、本市で実施可能かどうかニーズの調査も必要です。

「平和教育・平和学習」は、タブレットを使用して、ユーチューブの動画配信で可能であり、さらに沖縄県自治体教育委員会との連携で交流も盛んにおこなわれており、本市の小中学校でも積極的に実施していくべきです。そのために、先生方の現地研修や修学旅行地へ誘いなど早急に行い、課題を克服しながら実現に向けて、今後さらに前へ進めていくべきです。

5. むすびに

今回の行政視察地となった沖縄訪問は、人生で 2 回目の有意義なものとなりました。それは、沖縄県那覇市を視察させていただき、平和教育と子育て支援策について先進事例をお聞きできましたこと、本市の平和行政および子育て支援対策などに大変参考になりとても勉強になりました。とりわけモデル事業試行における貴重な研究資料をご提供くださいましたことに、改めまして心から御礼申し上げます。

最後になりましたが、那覇市議会事務局様、那覇市教育委員会様、こどもみらい部様におかれましては、大変御多忙のところ快く私どもの行政視察の受け入れをいただきましたこと、衷心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



(上写真) 那覇市役所にて那覇市議会事務局様、那覇市教育委員会様、こどもみらい部様よりご教示を賜る



(下写真) 那覇市議会議事堂にて 筆者は右端